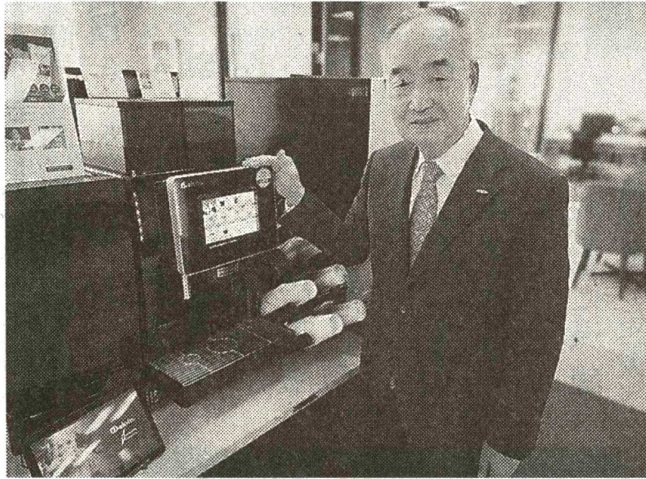


ダイオーズ 大久保 真一 社長

オフィス改革でコーヒー需要急増

ダイオーズは20年10月、オフィスコーヒーのラインアップにスペシャルティコーヒーを加えた。専門店レベルの高品質なコーヒーの人気は高く、大手企業を中心に需要が拡大しているようだ。最新のオフィスコーヒー事情について大久保真一社長に話を聞いた。

21年3月期は在宅勤務の増加により、大きく売り上げを落とした。22年3月期



大久保真一社長

は一転して好調となっており、過去最高の売上高も見えている。好調の要因の一つとして、オフィスのリニューアルに伴い、当社のコーヒーを新規導入する企業が増えていることがあ

21年も

20年に続き、在宅勤務が続いたが、20年のように完全在宅ではなく、週1〜2日は出勤するという企業が増えた。そのため生産性を高める目的でオフィスをリニューアルする企業が増えているようだ。固定のデスクをなくし、カフェのように自由に席を選べるオフィスにするケースもある。そういったケースでは、当社のコーヒーを導入することにより、従業員満足の向上につなげているようだ。

従来のオフィスコーヒーは無料や数十円のものが多かった。当社のスペシャルティコーヒーのコーヒーメーカーだと、価格を100円にしている企業が多いが、それでも利用者は急増していると聞いている。外でスペシャルティコーヒーを飲むと思ったら、500円前後かかる。コーヒーのために出社する人も出てきているようだ。

当社が貸し出しているコーヒーマシンには、エスプレッソやミルクフォームの機能がついているものもある。そのため女性からの人気も高い。コーヒーは1杯ごとに豆をひいているため、従来のオフィスコーヒーとは比べものにならない品質だと思う。

近年のオフィスコーヒーは「カプセル式」が主流になっていた。ただ、カプセル式はゴミが余分に出ることもあり、SDGsに逆行しているのが現状だ。そういった環境問題の観点からも、導入が増えているのかもしれない。

22年はこの「新しいオフィスコーヒー」の形を海外にも広げていきたい。まずは中国、韓国から、拠点を作り拡大させていく。